

## 令和元年度第1回親子いきいき保健部会 摘録

日 時 令和元年6月20日（木）18：30～19：30

場 所 京都平安ホテル 呉竹の間

出席者 尾崎明子委員，北島則子委員，熊谷幸江委員，小林知佐委員，志澤美保委員，  
芹澤出委員，藤垣真貴子委員，藤本明美委員（8名）

欠席者 木村友香理委員，田村秀子委員，松田義和委員（3名）

### 次 第

<議題>

「子ども・若者に係る総合的な計画(仮称)」策定に係る母子保健及び思春期保健の今後の方向性

(司会：西村 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課母子保健係長)

司会	<p>令和元年度 第1回「親子いきいき保健部会」を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしている。</p> <p>あらかじめ御了承いただきたい。</p>
司会	<p>「京都市はぐくみ推進審議会条例」第6条第3項において、当審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員11名中、8名の方に御出席いただいているため、会議が成立していることを御報告申し上げます。</p>
司会	<p>本部会の部会長については、「京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則」第3条第1項及び第2項の規定に基づき、一般社団法人京都府医師会 理事 松田 義和（まつだ よしかず）委員にお願いすることとしているが、本日は、松田部会長が急務により欠席のため、同施行規則第3条第4項に基づき、部会長の指名により、公益社団法人京都府看護協会 第一副会長 北島 則子（きたじま のりこ）委員に代理をお願いしている。</p>
司会	<p>北島部会長代理から一言お願いしたい。</p>
北島部会長代理	<p>令和2年1月策定予定の新計画策定のための審議について、スムーズな進行に御協力をお願いしたい。</p>
事務局	<p>ここからの議事進行については、北島部会長代理にお願いする。</p>
北島部会長代理	<p>それでは、議事に入る。</p> <p>まず、次第の「議題」,「『子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）』策定に係る母子保健及び思春期保健の今後の方向性について」のうち、「資料2 母子保健の今後の方向性について」,事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料2「母子保健の今後の方向性について」を用いて説明</p>
北島部会長代理	<p>ただ今の事務局からの説明について、質問はあるか。</p>
藤本委員	<p>施策の具体的な内容の審議等、今後の全体的な流れはどのようになる</p>

事務局	<p>か。</p> <p>来年度予算要求を見据え、6月に開催する各部会において重点項目と量の見込みの方向性について審議し、各論等の細部については、9～10月頃にパブリックコメントを聴取した上で検討を進める予定。最終的な策定は年明け1月頃。</p>
藤本委員	<p>「子育て世代包括支援センター」の職員である「子育て支援コンシェルジュ」は、各施策を推進する上で、大きな役割を担っていると思う。</p> <p>「乳幼児期の子育て支援」をテーマとした共同部会において、「子育て支援コンシェルジュ」は保健師72名、保育士20名の計92名と聞いたが、この人数で十分か。地域の子育て支援機関が、行政と連携しながら安心して妊娠・出産できる環境づくりを推進する中で、「子育て支援コンシェルジュ」が増えると良いと実感している。</p>
北島部会長代理	<p>予算に大きく関係するため回答は困難と思われるが、事務局としてはいかがか。</p>
事務局	<p>本市としては、今年度から、「子育て世代包括支援センター」である区役所・支所子どもはぐくみ室に、継続的個別支援を担う係長を計14名、保育士を計10名配置し、支援を充実したところである。</p>
芹澤委員	<p>今年度、国で「産前・産後母子支援事業」等の充実として、特に特定妊婦に対する支援に係る予算が組まれている。本予算を活用した施策を新計画に反映し、充実を図っていただきたい。</p> <p>また、「子育て世代包括支援センター」の相談受付時間は平日のみだが、共働き世帯が増えている中、平日の妊婦教室等にも参加できないまま出産を迎える、夜間・休日に子育ての悩みを感じ虐待につながる等、夜間・休日に対応できる支援が求められている。御検討いただきたい。</p> <p>特に特定妊婦に対する支援の内容については、安心して出産・育児ができるよう、方向性について検討する必要がある。</p>
事務局	<p>頂戴した御意見については真摯に受け止め、検討する。</p>
藤垣委員	<p>京都市の「にんしんホッとナビ」の運営に携わる中で、悩んでいても相談できない、妊娠がわかってでも母子健康手帳を取りに行かない等の実情があり、対象者を支援のルールに乗せる段階の支援を検討する必要があると感じる。中高生等の世代に対する妊娠・出産に関する知識の啓発</p>

志澤委員	<p>や、平日以外で企業が実施しているマタニティスクールの活用等も検討が必要ではないか。</p> <p>また、「子育て世代包括支援センター」は部署名ではなく、機能の名称であり、市民に浸透しにくいと思われる。</p> <p>組織再編後、区役所・支所の各窓口の役割が市民に浸透していないのではないか。妊娠期からの切れ目ない支援を推進する窓口として、「子どもはぐくみ室」の役割を周知する必要がある。例えば、大阪市であれば、各市民の担当者を確実に伝え、「この人に相談すると良い」と市民が認識できるよう取り組んでいる。</p>
事務局	<p>本市としても、妊娠届出時に子育て支援施策をまとめた冊子「妊娠期からの子育てサポートプラン」を全数配布しており、必ず担当者を紹介し、スムーズな相談につなげられるよう取り組んでいる。</p>
北島部会長代理	<p>続いて、「資料3 思春期保健の今後の方向性について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3「思春期保健の今後の方向性について」を用いて説明</p>
北島部会長代理	<p>ただ今の事務局からの説明について、質問はあるか。</p>
尾崎委員	<p>思春期健康教育の推進について、具体的な内容や、連携先の関係機関を教えてください。また、健康教室を希望する学校に対して実施しているとのことだが、全校中の割合はどの程度か。</p>
事務局	<p>具体的な割合は不明だが、年間およそ50校から依頼を受け、区役所・支所子どもはぐくみ室の職員が、学生ボランティアの協力を得ながら健康教室を実施している。内容としては、妊娠・出産に係ることの他、性感染症や受動喫煙を含めた喫煙対策についても、区役所・支所内各担当部署と連携しながらテーマ設定しており、健康づくりの観点からの講話と体験学習を行っている。</p>
北島部会長代理	<p>学生ボランティアの協力を得ているとのことだが、京都府医師会や京都府助産師会とは連携しているか。</p>
事務局	<p>京都府医師会、京都府助産師会等に御参画いただいている思春期保健対策ネットワーク会議において広く意見を頂戴することで、事業運営に</p>

	<p>反映している。学生ボランティアについては妊婦体験の補助等について協力をいただいている。</p>
尾崎委員	<p>「青少年と乳幼児とのふれあい事業の推進」とは、どのような内容をイメージしているか。</p>
事務局	<p>児童館に来館した乳幼児の子育て家庭と中高生との触れ合いをイメージしている。</p>
志澤委員	<p>児童館に行く機会の無い人は体験の機会を得られないのではないか。青少年にとって子育て等のイメージ作りのために乳幼児との触れ合いは効果的である一方、少子化等により青少年が乳幼児と触れ合う機会が少なくなっているため、機会づくりが必要である。</p>
藤本委員	<p>年間5～6校程度の中学校・高等学校から、直接当法人に対して妊産婦等の学校への訪問調整を依頼されることがあるが、これは思春期保健対策とは異なる予算で運営されているものか。</p>
事務局	<p>学校では、学習指導要領に沿い、「保健」教科として知識を習得する部分と、「道徳」教科として意識づくりを行う部分を、発達段階に応じて系統立って教えている。また、「特別活動」の授業を週1回設け、薬物乱用防止、性に関すること、自転車安全教室等、各学校が地域特性を踏まえて年間計画を立て、授業を行っている。</p> <p>中高生に対する思春期健康教育としては、学校主体の知識提供と合わせて、市の事業メニューを活用した体験学習を行うこともあり、予算の形態は様々である。</p>
北島部会長代理	<p>それでは、本日の議事は以上だが、全体を通して意見や質問はあるか。</p> <p>資料3-3項目1(3)「健康について知りたいこと」として、「食や栄養に関すること」と回答している割合が高いが、京都府栄養士会のお立場から御意見はあるか。</p>
熊谷委員	<p>管理栄養士や栄養士の養成校が増えている実情から、我々の役割の拡大を感じる一方、子どもや若者にとって食事に関する学習機会は少ないと感じる。</p> <p>各ライフステージに対する活動を鑑みると、高齢者への活動機会は多いが、妊娠中や乳幼児期に対する活動が重要だと感じる。京都府栄養士会としても取り組んでいきたい。</p>

北島部会長代理	<p>違法薬物について、京都府薬剤師会から学生に対し講演をされていると聞かすが、京都府薬剤師会のお立場から御意見はあるか。</p>
小林委員	<p>各学校には学校薬剤師がおり、各学校における検査の他、薬物・タバコ・飲酒に関する授業を行うことがある。違法薬物に関して学生の逮捕があつて以降、警察からの違法薬物に関する授業も増えているが、薬剤師としては健康づくりの観点から授業が可能のため、ぜひ関わりたい。学校薬剤師をぜひ活用していただきたい。</p> <p>薬剤に関すること全体の支援としては、薬局が地域の健康づくりの拠点として、OTC薬や衛生材料を購入された方の相談先として関わると良い。</p>
事務局	<p>薬剤師と警察とでは異なるアプローチが可能と認識している。小・中・高等学校では、年1回、薬物乱用防止教育をしており、ただ乱用してはいけないということだけではなく、「なぜダメなのか」を伝えなければ、子どもの心に届かないと考えている。</p>
北島部会長代理	<p>その他、御意見はあるか。特になければ、本日の審議はこれで終了し、事務局へ進行をお返しする。</p>
事務局	<p>本日頂いた意見については、事務局において検討させていただく。以上をもって、第1回「親子いきいき保健部会」を終了する。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>